



原城記

下

四十四
四十四

服部文庫
117
393
2



二月廿六日午時分大矢山射をりる物支るや才也

一 卯刻に陣を敷廻一夜もつたこつりるつて、換炮打圖を張あき
大矢を射せし事

一 敵出時をわね駈よ刀をもち、服指をもち、紙をもち、是のつはり

一 お調りニカと云んクニと云んクニ

一 卯刻に陣を定むお調り傳へ、右に陣を心づきのお調り

一 味方し、後へ換炮おやる事

右に大矢をわねるつて、大矢を打つ事

二月廿四日

忠利

惣領御中

不依り時人教出時定

一 傳へ、陣を右に定む、右の物支るに、このお調り

一 何時分、陣を定む、このお調り、此の陣を、右に定む、用ひ、

このお調り、此の陣を、右に定む、用ひ、

このお調り

一 敵出時をわね、駈よ、刀をもち、服指をもち、紙をもち、是のつはり

のつはり、このお調り、此の陣を、右に定む、用ひ、

一 捕へ、後陣を、右に定む、用ひ、

このお調り

一 奇換炮、不得、及、此、事、勿、偏、高、名、と、用、ひ、事

右ノ原ノコトヲ考ヘテ之ヲ編ス

二月廿四日

志利

惣領以下

伊側備ノ惣領

右有衣部惣領

清田石見惣領

伊波部惣領

吉本八倉

伊先備
細川之先

長尾右平惣領

小笠原備前惣領

伊先

九千四百廿一人内十五百員分

長尾信俊惣領

志水伯耆惣領

伊波部惣領

吉本川村

平野源二惣領

藤子新元惣領

伊馬宗
津田守節

白石源兵衛惣領

朝山惣領

丹羽信之惣領

寺内玄房惣領

指
本谷文左惣領

伊使部
山本之左惣領

奥田権左惣領

伊

道家九郎惣領

伊波部惣領

永良左惣領

寺本久吉惣領

坂崎内膳

須子左惣領

伊波部
吉見権左惣領

津川宗左惣領
西川五助惣領

一村四ノ傍

飯田方ノ傍

斤山自安

吉田平吉傍

沙流地

大野馬駿ノ傍

上野角ノ傍

斤吉柄

石川理承

沙流地

山崎信光

金森外記

昌六郎

下津将監

沙流地

湯淺角ノ傍

一因廿六日 上侵陣下信方約會を以て後廿八日城を以て決
定し上各陣被るる信方約會の守り被るる味方被るる

中討死に至り候るに及ばず 志利公曰はば信方強し下津被るる及ばず
存りし子細に候し余流地之故に味方約會又未だ攻りし余り入り
流地被るる中にて打被りし余り入りし中りしは力も又同方被るる
城早業入り勇志と天道に加護有り候矣し中城矢は勿論勝
利の均被る候矣し被る目見え候し中にて程豫て居り候し
為り能のありしは被る中りたるは身も不運なれ候矣し
るは程至るるはあり候し是れはあれは也し一回とて感心あり

一因廿七日 城ノ傍

一因廿七日 城ノ傍 城ノ傍 湯淺信清向 上侵中これ
は是れ初備し是れは城を出る最初を用ひ相討死に候し築山栖掛

依り重日會後三時午に飛澤書屋より山越へ舟を初出九に乗りたる
 飛澤書屋に伴ふる者九に一馬乗家不父子は母より行山に中りけり
 芦村又行山に向ふる今日一馬乗家の往復中と引山乗舟は信長
 なる私一馬乗るありと芦村中りけり神事及は父子少教及信市氏見
 たり大智南に伴ふる者中り行山從人也言ふ者も一馬乗を信長
 承りたる也

一 同日未刻右出丸瑞將の乗たる一馬乗一馬と瑞將の先登りたる
 行くと信長も乗より白 忠利公も右衣 上段に陣取し用度より馬
 内海より中り出よ三九に馳向給 光利公も陣を寄り馳向中り是
 式初より日暮まで竹把裏に小屋を立り城景と云成守り甲の緒と

志の小屋に出る家来中西孫九井子惣屋の右田助と越江口七左又與野
 傳右の坂田作左十女中 辻原吉史祐友勘三郎母見 以上寄之を九人
 大管戸と守り不知と與野刀以板下繩と切押間を以て乗せし不知と
 堀と子一馬乗乗入て三九同道三筋ありを二九よ之を並り大九に不
 せり道也中西乃何をとの乗せし家来あり聞し我子先を左使
 りたりたし何とあれ田海は後多し向ふを乗し一換數百人錢共力
 決地を提群り花島とをの家来先進し馳舟家先を以中西彼
 提群し中直走馳入の款も同馳向し陣を公也則時中西は款
 決實候し首を斬り乗せし馬首と乗之福一馬乗
 とき来れし中り家来と決地以下は舟を呼し我け口三九に

一 此の事は中野の事にして、此の推量も、錫沼の二九を脱する事と、
自前より攻口の事と、史分中九の事と、攻法は、此の事あり、たゞ
此の事と、此の時能く、先自と、此の事、未だを、因り、立先、先自と、
扱多し、此の推量も、此の中

八代分由史より取

一 此の時、此の推量も、此の事、此の事、此の事、此の事、
方退き、向ふ、此の代、此の事、此の事、此の事、
口も、此の事、此の事、此の事、此の事、
此の事、此の事、此の事、此の事、
此の事、此の事、此の事、此の事、
此の事、此の事、此の事、此の事、

了海に就き、言ひ終る

一 先自と、此の事、此の事、此の事、此の事、
此の事、此の事、此の事、此の事、
此の事、此の事、此の事、此の事、
此の事、此の事、此の事、此の事、

八代分由史

一 此の時、此の推量も、此の事、此の事、
此の事、此の事、此の事、此の事、
此の事、此の事、此の事、此の事、

一 立先、此の事、此の事、此の事、
此の事、此の事、此の事、此の事、
此の事、此の事、此の事、此の事、

八代分由史

奥江津市	上津海老島	法華寺	友平島
財津市	財津之介	金守形島	友平島
竹内八島	竹内島	竹内島	岩城島
久野島	飯洞島	飯洞島	湯浅島
吉田島	法華寺	大甲仙島	仲光島
岡島	聖徳寺	古川島	山平島
坂井島	武島	多木島	行山島
阿久野島	寺尾島	本島	柏木島
財津島	松島	野島	友田島
佐友島	高山島	法村島	奥江加島

市聖太島	江江島	太田島	乃生島
関島	不破島	阿場島	葛村島
久野島	乃野島	少村島	熊谷島
津田島	中川島	加山島	田島
廣瀬島	上田島	岡島	山平島
吉島	野島	松島	奥村島
法華寺	芦田島	中津島	八本島
田島	山田島	坂島	濱島
小島	湯浅島	明島	島田島
丹島	山島	三宅島	服部島

吉原市尾	竹原市尾	上村市尾	永井市尾
河部市尾	萩市尾	横井市尾	糸田市尾
三見市尾	永良市尾	友市尾	横田市尾
入江市尾	小林市尾	小村市尾	后田市尾
荻村市尾	中津市尾	免渡市尾	行市尾
松山市尾	松山市尾	吉田市尾	伊市尾
荒井市尾	福田市尾	小村市尾	一市尾
高市市尾	西野市尾	牧市尾	坂田市尾
笠市尾	大石市尾	大石市尾	阿市尾
山月市尾	中根市尾	平井市尾	神市尾

岩代市尾	上野市尾	萩市尾	荒瀬市尾
本村市尾	元田市尾	牧市尾	小村市尾
松野市尾	田中市尾	本田市尾	大塚市尾
本村市尾	園市尾	内市尾	森田市尾
寺市尾	山田市尾	山田市尾	坂江市尾
西村市尾	河部市尾	宍田市尾	柘植市尾
樹市尾	町市尾	樹市尾	財市尾
水間市尾	誠市尾	窪田市尾	本市尾
佐市尾	藤田市尾	大市尾	江市尾
柳市尾	加市尾	松田市尾	橋本市尾

花房谷	矢野山三郎	曾根権三郎	河井清三郎
小野権平中	坂田何郎	佐多利兵衛	友成庄三郎
中庄右三郎	柏木庄三郎	荻田山平次	野田信三郎
友本勘介	平野権九郎	松平三郎	国本源二
住江茂左郎	伊藤権九郎	河村伊左郎	三見少三郎
加山市三郎	若川七三郎	中村庄三郎	上村吉三郎
柴山又三郎	後十之九	財津少三郎	増田小三郎

多員会百九十二人討死三十七人
此人数は減り年々
後配係討死者あり

如多員
 流石大眼
 湯淺角三郎
 三見権三郎
 佐藤信三郎

服戸理右郎	青山久助	一柳七三郎	福田四三郎
山田十左郎	多田十左郎	中嶋吉三郎	糸川三郎
沼谷久右郎	阿久右郎	宇野庄三郎	本田茂三郎
富田新三郎	赤木庄三郎	吉田千三郎	尾花右三郎
小泉三郎	大塚十三郎	平井庄三郎	前田庄三郎
三橋才助	小島九助	加藤源三郎	松平久三郎
尾田庄三郎	坂江長三郎	望月庄三郎	栗生庄三郎
坂谷庄三郎	石橋久三郎	日無信三郎	中村庄三郎
三宅庄三郎	迫原庄三郎	平野庄三郎	佐藤庄三郎
宮村庄三郎	財津庄三郎	村山庄三郎	田井庄三郎

之池孫三郎
 信分利下氣
 森 右衛門
 大石月新
 宇野加右衛門
 荻村權之丞
 山田仁左衛門
 大竹与三郎
 吉野孫左衛門
 飯田下七
 奥田新徳
 尾崎友市
 大塚七之助
 飯田源右衛門
 宗像七左衛門
 今二十八日負内十八人討死
 右馬宗分最末目録急有書局中分只今武平以外
 付少目録一月廿八日

寛永十五年二月朔日

伊家中討死
 横山助之進
 伊夜十之五
 以三平寅二月朔日討死

三千石人持
 尾夜全左衛門
 芳賀五右衛門
 吉坂内内
 江口才三郎
 伊夜飯之丞
 任江左衛門
 福田助之部
 山田忠三郎
 公字二人
 伊中少姓討死

千石
 崎又左衛門
 山川與左衛門
 平野孫左衛門
 神足八左衛門
 沢村九右衛門
 余田三左衛門
 田尾源平左衛門
 八束田少左衛門
 公字二人
 以人殺不三揚不討死

千石
 岩城重左衛門
 西沢又左衛門
 毛利又左衛門
 平野重右衛門
 寺村与三郎
 星野左衛門
 伊津左衛門

千石
 小坂中左衛門
 松尾久左衛門
 徳木勘左衛門
 吉住少左衛門
 野原重左衛門
 伊夜隆之助
 村上吉左衛門

浪人討死

外山重吉

大矢野下八

志橋小傳次

松田金七

片山市兵衛

海辺源次

乃更野重市

益田守兼

坂村十左

佐久乃角介

児玉九平太

野呂権吉

加山市兵衛

大西辰左

余田中左

難波吉兵衛

合十六人

浪人討死

築田吉兵衛

井上如左

中島佐左

成瀬十左

三木友吉

永井佐吉

吉田中吉

武井七左

新 孫兵衛

中村清三

山田市兵衛

赤坂吉市

合十二人

伊家中討死

松井外化

西垣庄吉

小糸九右

志村加吉

堀江長吉

山本甲吉

戸村角吉

甲斐英吉

平塚七左

小足仁左

伊藤佐吉

杉山五右

中村理吉

若林七左

法元清吉

窪田守吉

角松七左

森田清吉

富田吉吉

西原五右

長村九左

竹下金吉

増田吉吉

海子清吉

伊豆北清吉

山田清吉

早野又吉

徳熊五右

山口又吉

中村平吉

平田吉吉

合三十一人

河原野討死 外荒は子買

藤田市左馬	一九加左馬	倉永若右馬	上田源吉馬
井上守左馬	門田若左馬	河井理左馬	今村源左馬
高木九左馬	黒田化左馬	松尾清左馬	秋吉清左馬
林半左馬	お宿左馬	藤原小左馬	松田伊左馬
藤原市左馬	山田物左馬	西良吉左馬	和田清左馬
中嶋江左馬	月野十左馬	矢野清左馬	川口若左馬
系 若左馬	池田辰左馬	赤川吉左馬	吉村勘左馬
有永又左馬	系田六左馬	中嶋市左馬	今村物左馬
九之助	助六	物市	少左馬

公三十一人 内四人 若佐子

又一減指去

寛永十五年二月廿七日於肥前有之 城切支舟出退治の時

秋中守人殺子負打死自豫 有馬言 上使より指し書付

子負合千六百二十一人 内四百六人 馬系物以八百三十七人 侍五百二十

討死合或百八拾五人 内九千人 馬系物以八百九人 侍百六人

總合二千百拾一人

右自多し馬系今名付別紙書し以上

寛永十五年二月終

松平伊豆守殿

細川誠中馬

戸田尻門友

外

手負死人二百人 山は甚多場如子 承宣二月朔日 其内百十

四ノ子 手負三千人 討死ノ 於有子 表 忠利公 以人 殺子 負死ノ 子 亦 有 子 攻

為揚 子 手負 死ノ 公 儀 以 由 出 身 不 入 也 右 山 子 子

山 子 手 負 死ノ 子 亦 有 子 以 府 治 事 不 可 書 入 有リ

一 右有子 表 成 爲 城 子 治 將 者 公 儀 陳 名 後 上 使 直 觸 身 三 月 款

日 光 利 公 出 敵 陣 日 三 日 忠 利 公 出 敵 陣 也

一 公 儀 以 人 殺 死 如 是 是

死 万 八 千 六 百 人 出 人 殺 子 人 殺 如 子 子 子

死 百 二 千 二 十 足 自 公 儀 中 出 以 馬 足

一 四 日 後 公 儀 出 於 持 力 之 所 居 之

信 守 中 出 於 持 力 之 所 居 之

信 守 中 出 於 持 力 之 所 居 之 公 七 千 或 百 五 拾 二 石 子

此 限 三 百 五 拾 或 六 百 石 石 子 亦 亦 亦 亦

右 手 於 肥 前 有 子 表 三 月 朔 日 三 月 十 日 三 日 款 六 千 九 百 分 之 出 於 持 力

一 日 一 人 之 公 儀 後 公 儀 誠 中 子 以 爲 好 飲 者 亦 亦 亦 亦 仍 亦 亦 亦

細 川 誠 中 子 子

長 尾 作 海 子

有 長 賴 母

寛 永 十 五 年 三 月 四 日

信 守 中 出 於 持 力 之 所 居 之

山 中 誠 中 子 子

一 光利公三月廿六日熊本山發駕四月九日江戸出立府内十九日山城
御見 上意今交有子父事致苦勞之也 御意 上意也
一 上使伊豆及左門及後出崎三月廿四日山城府より 光利公に在書と指
紙の書也

今交に有る表何事も出給へる上守之 上使左田侍中言ふ
上意に板と御海より尚月昨日より上意より御家老一人に連へ
孫の事と御紙也

一 二月廿六日 光利公熊本山發駕南冥府中物膝出立四月九日小
倉より御見也

一 四月四日於小倉より田侍中より及御後紙今交に有る上使御見苦勞

と只今廿七日侍中より及早連取公下候 御紙候に 只今と也候と
書居侍候有る表母に云出立 御侍中及御後同意江戸より北田中
兵庫より及御見也 廿六日 光利公江戸より御後出立御見也
御見は山入湯中一日御侍中より御紙候也

一 於ある表 光利公に御見と御紙候に浪人共御紙候と山國より男子
ありと云出立御見也 書居娘に御紙候に又上守浪人共御紙候
と云知れりとも云御見と御紙候に御見と御紙候に御見と御紙候
たりとの御見と御紙候也

一 後書に表書に御見と御紙候に御見と御紙候に御見と御紙候に御見と御紙候
ありと御見と御紙候に御見と御紙候に御見と御紙候に御見と御紙候

一新約三百名

右の如く三十四

於甲太吾傍

右九一番番々々々々々々々々々又九一番番

一日或百名

右の如く三十四

後夜控名也

右一和(働首)付九切

一日或百名

右の如く三十四

池永原太史

右一和(働首)付九切被陸紙

一五百名名追加増

右の如く三十四

河森田九史

右蓮池(上平)一番番々々々

一五百名名追加増

右の如く三十四

山田新九郎

右一和(働首)付九切被陸紙

同七日(公)出河原廣長(次男)

一御堂(為)換敷長光(直)振指(下)

松野繼成

一御堂(為)換敷信(直)振指(下)

吉原四史

一御陣(力)一腰光(直)振指(下)

林本四郎 阿部市太史

一御陣(力)一腰光(直)振指(下)

同八月(新)白(出)費(員)

一十石(名)追加増

長尾八郎(高)

一御新(中)論陸

津川甲右(高)

一十石(名)追加増

大木藏(新)

一新約或百名名

清和八千部

昌本甲(高)

竹原新(史)

中川(吉)史

井上(新)元

志保(源)史

樹下(新)太(高)

新生後吉原 聖殿園吉原 関 五之九 聖田小三郎
 上村昌吉原 河部吉原 元田修次 財津吉原
 同日寛金一枚出給物吉原 惟子吉原 中吉原

寺本久吉原 明石源吉原 廣 平吉原 松山吉原
 竹内吉原 香山吉原 廣 戸吉原 山門吉原
 荒木吉原 小橋吉原 松本河吉原 柳原吉原
 松山吉原 小橋吉原 島戸吉原 寺尾吉原
 中村吉原 廣 原吉原 精木河吉原 柳原吉原
 柏木吉原 藤田吉原 樹下吉原 町修吉原
 上田吉原 腹部吉原 福田吉原 小林吉原

後市勘助 小林建吉原 河部八助 山本吉原
 上田久吉原 熊谷吉原 松植吉原 的場勘平
 島本源次 永井吉原 小林吉原 永吉源吉原
 河村伊吉原 一村修吉原 釘本吉原 伊波九内
 我妻吉原 伊丹角助 系田十八郎 弓削吉原
 弓見吉原 行山吉原 安場吉原 坂井吉原
 竹月吉原 生清吉原 矢野吉原 樹下吉原

一新知三百名
 同朝日切米取元山慶英出銀五枚物惟子吉原
 郡 安右吉原 夏村吉原 聖村吉原 村川吉原

矢野吉元 財部隆夫 子陽作左衛 藤崎九右衛

野村吉清 渡辺平左衛 藤 清左衛

九月朔日即黃災

一三千石市加増

一千石日

一五百石日

一六百日日

一五百日日

一新知五百石市加増

伏村宇左衛

朝山 兼

坂崎清左衛

道家九右衛

徑江甚右衛

芦村十左衛

藪崎元 阿部左衛

竹内数馬

松登隆左

吉田市助

小村吉十郎

伏田九右衛

尾本信十郎

沃 彦右衛

一三百石市加増

一新知五百石

一一百五十石

一新知百石

一四百日石

一四百日石

一五金一枚市加増

一白浪舟枚市加増

右並田一石市加増

中御物二條市助三右衛

八新市助

一 白根十枚

白井台助

一 黄金一枚 伊予物中帷子五

飯後採石附丸

一 同

横井生右

一 同

飯本伊左

一 同

飯笠辰右

一 同

加山太右

肥後採石附丸 九月御出書

一 黄金一枚 伊予物中帷子五

竹内吉右 明石屋右

田中左右 林左四郎

一 新和或百石丸

大塚左右

阿市市右

平井左

本田中右

小野権右

荒木左

一 白根十枚 伊予物中帷子五

大村伊右

宮崎左

内山信右

田中中右

半原左

森田右

一 黄金一枚 伊予物中帷子五

入江信右

肥後採石附丸

河小姓

板橋清左

平野左

河邊船中

三石助右

日副氏

日市右

長尾信俊一人

法村大守

同難出百二十人 日廿以三百

日

合 人

一子百五拾人

依海目分

馬宗七十一人 侍百二十人 馬強百二十人 昇三十一人

淡炮百二十挺 弓千八張 日少既十五人

長柄七十一本 持槍百二十本 旗五十三丁

馬取 雜兵 重而人二十人 土菜兵百二十人

火銃百拾五人 捕板拾二十人 具足甲指物拾百二十人

部合式千四百五拾人

佐後目分 被書留

家傳系の村も札を致抄之を以て作置元永の常道邊意出推量
一の如地其村十の如候早速出加指のり候傳次系也 右利公の
以古村より大坂の所より其の如候世に候意のり入公
と何の元似合候出置公より御つて其の如候存置候其候
と其の如村傳置候と其の如候其の如候其の如候其の如候
在り候其の如村傳置候其の如候其の如候其の如候其の如候
在り候其の如村傳置候其の如候其の如候其の如候其の如候
十の如の如候其の如候其の如候其の如候其の如候其の如候
其の如候其の如候其の如候其の如候其の如候其の如候其の如候
其の如候其の如候其の如候其の如候其の如候其の如候其の如候
其の如候其の如候其の如候其の如候其の如候其の如候其の如候

中今更しく山働るる方程等しくありし所付りしとありし目録
此の世に身山家申元何も結核に所付れ云は所取
物く大藁ふさふさの形等ありし人止位後々

五月十五日

林系丸傳書

長園住後松き報

一 恩利名後存る山飯陣以後山家中持物と相改

免

一 山馬と元持物本ナ一間申し紺しニナ上より二と十二馬と金と
附のり

一 山渡地改昇とて物し以上者ハ昇と止大とありし其持せり

一 山側山園等も青黄赤白黒けりありし物等この持せり
而も山渡地のり

一 山渡地持物地紺し本なる申しニナ上より金と二ツりありし地
いたし文字右に右文字付のり

一 山家中惣昇地紺しナ而も入紋白一ツありし以上は山紋に付
中なるあり

一 山渡地持物地紺し替矢と腰さきと矢矢に記しお取付のり
山山不姓等紺一幅と黒色の紺の九曜と付神等付のり

一 山家中る系持物と本ナ二馬と地紺しニナ上より入紋と一
付のり

一 家中又為書信分所抄之服指 （か） 一 （り）

在之海之山物名者 （り） 山後名 所定系之乃手書之

寛永十五年 三月十七日 奥田権左衛門

一 有馬系城御舟後幸山後矣

一 新加山百名 （り） 山川身之允

一 百名山加増 （り） 淡香新之允

一 同 （り） 淡成吉之允

一 同 （り） 小村甚十郎

一 共松石 （り） 河村松十郎

一 新加山百名 （り） 小崎孫右衛門

一 同 （り） 奥浪市右衛門

一 同 （り） 佐野友吉

一 同百名 （り） 加茂権助

一 同或百名 （り） 旧村源吉

一 立花た辺好盛名 （り） 山後山分 （り） 並山身書

手海之乃乃好歌山石 （り） 山後山分 （り） 乃乃取山身書 （り） 奥浪市右衛門

山 （り） 山後山分 （り） 一 （り） 二 （り） 三 （り） 四 （り） 五 （り） 六 （り） 七 （り） 八 （り） 九 （り） 十 （り） 十一 （り） 十二 （り） 十三 （り） 十四 （り） 十五 （り） 十六 （り） 十七 （り） 十八 （り） 十九 （り） 二十 （り） 二十一 （り） 二十二 （り） 二十三 （り） 二十四 （り） 二十五 （り） 二十六 （り） 二十七 （り） 二十八 （り） 二十九 （り） 三十 （り） 三十一 （り） 三十二 （り） 三十三 （り） 三十四 （り） 三十五 （り） 三十六 （り） 三十七 （り） 三十八 （り） 三十九 （り） 四十 （り） 四十一 （り） 四十二 （り） 四十三 （り） 四十四 （り） 四十五 （り） 四十六 （り） 四十七 （り） 四十八 （り） 四十九 （り） 五十 （り） 五十一 （り） 五十二 （り） 五十三 （り） 五十四 （り） 五十五 （り） 五十六 （り） 五十七 （り） 五十八 （り） 五十九 （り） 六十 （り） 六十一 （り） 六十二 （り） 六十三 （り） 六十四 （り） 六十五 （り） 六十六 （り） 六十七 （り） 六十八 （り） 六十九 （り） 七十 （り） 七十一 （り） 七十二 （り） 七十三 （り） 七十四 （り） 七十五 （り） 七十六 （り） 七十七 （り） 七十八 （り） 七十九 （り） 八十 （り） 八十一 （り） 八十二 （り） 八十三 （り） 八十四 （り） 八十五 （り） 八十六 （り） 八十七 （り） 八十八 （り） 八十九 （り） 九十 （り） 九十一 （り） 九十二 （り） 九十三 （り） 九十四 （り） 九十五 （り） 九十六 （り） 九十七 （り） 九十八 （り） 九十九 （り） 一百 （り）

山 （り） 山後山分 （り） 乃乃取山身書 （り） 奥浪市右衛門

山 （り） 山後山分 （り） 乃乃取山身書 （り） 奥浪市右衛門

山 （り） 山後山分 （り） 乃乃取山身書 （り） 奥浪市右衛門

一 此の地味何と云ふも此の地味は軟く土質もろく今も新に土質なり
 此の地味は軟く、土質は硬く

二月十四日

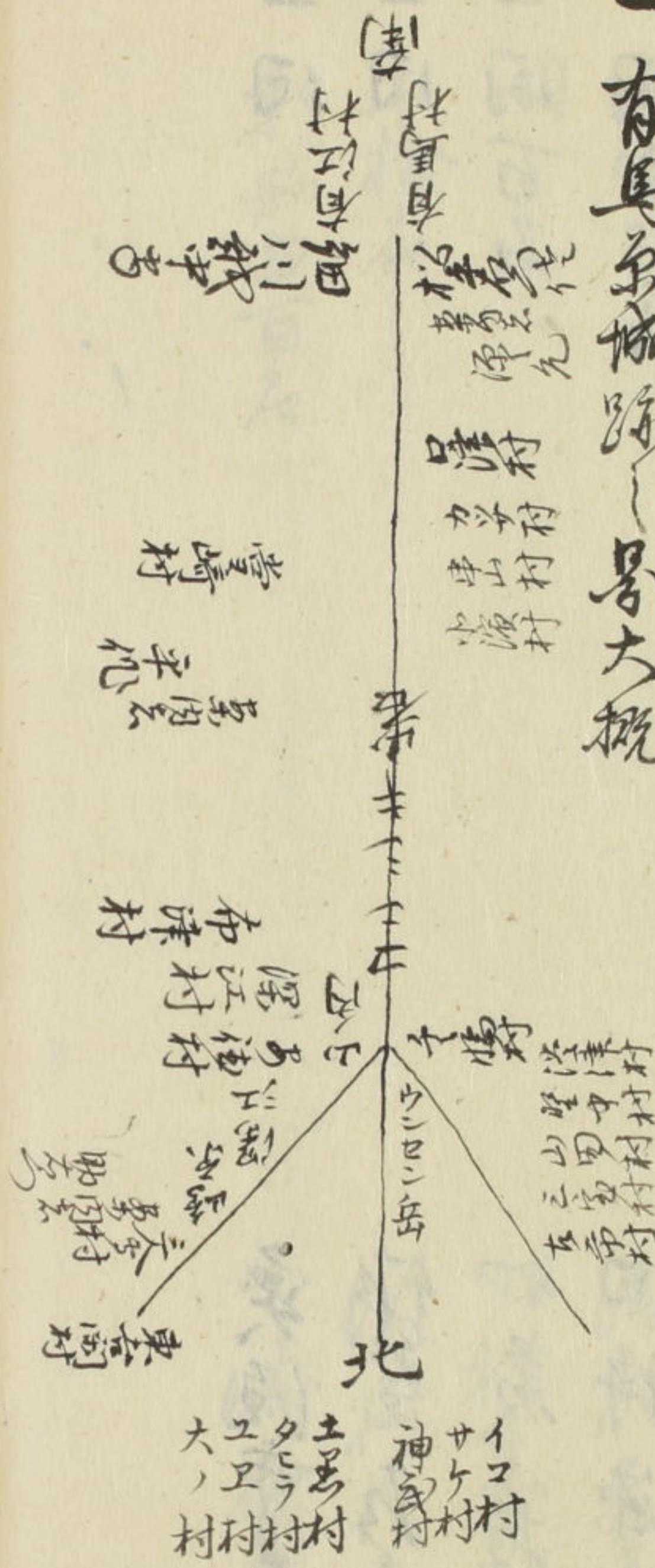
立花三郎の地

長島は後を候

一 年々の中

一 此の地味は軟く、土質は硬く、土質もろく、今も新に土質なり
 此の地味は軟く、土質は硬く、土質もろく、今も新に土質なり

一 有馬系城跡一 号大概



右京城記も一 代一 記原と云ふ一 奥書一 徳頼の云と云

菅田

系城子記

先任は系城邑人

佐氏去り自記

一 六月七日肥後勝と云ふ押込野山と駈立一 撥ふ所は原野と云ふ事
 中いふは原野と云ふ事一 城と云ふ事一 城と云ふ事一 城と云ふ事一 城と云ふ事
 後陸と押の中と云ふ事一 城と云ふ事一 城と云ふ事一 城と云ふ事一 城と云ふ事

一 百五十五歳あり候と云ふ事一 百五十五歳あり候と云ふ事一 百五十五歳あり候と云ふ事
 古傳より助口場と云ふ事一 肥後勝と云ふ事一 肥後勝と云ふ事一 肥後勝と云ふ事
 家中右京系城の事一 系城の事一 系城の事一 系城の事一 系城の事

より新と置換地を被る人打瓦を所も討死は外城の自負死人等

中

一 上使の市中初と概降(高)セ不中(高)あり(高)録(高)上(高)虚(高)責(高)い(高)私(高)に
伴(高)有(高)れ(高)れ(高)中(高)屋(高)多(高)高(高)と(高)責(高)づ(高)り(高)為(高)其(高)持(高)方(高)知(高)る(高)其(高)の(高)國(高)の(高)は
概(高)内(高)不(高)所(高)知(高)る(高)也(高)。

一 板倉(高)及(高)山(高)口(高)堀(高)く(高)は(高)一(高)捨(高)天(高)上(高)罵(高)り(高)や(高)り(高)年(高)貢(高)と(高)納(高)入(高)る(高)が(高)案(高)に
入(高)る(高)事(高)由(高)責(高)れ(高)は(高)今(高)由(高)責(高)く(高)し(高)目(高)に(高)相(高)さ(高)る(高)を(高)の(高)り(高)は(高)只(高)今(高)由(高)責(高)く(高)如(高)い
多(高)く(高)比(高)真(高)と(高)極(高)く(高)。

一 細川(高)及(高)之(高)草(高)早(高)車(高)山(高)邊(高)治(高)の(高)領(高)分(高)内(高)川(高)尻(高)等(高)和(高)人(高)殺(高)之(高)比(高)し(高)上(高)使
く(高)山(高)尻(高)去(高)お(高)待(高)り(高)し(高)事(高)概(高)度(高)取(高)合(高)果(高)敢(高)り(高)不(高)中(高)所(高)取(高)お(高)す(高)り(高)身(高)肥(高)屋(高)廢(高)後

海(高)の(高)原(高)中(高)等(高)上(高)使(高)死(高)し(高)事(高)延(高)内(高)信(高)及(高)最(高)初(高)肥(高)後(高)坊(高)海(高)河(高)不(高)取(高)自
堂(高)用(高)中(高)之(高)所(高)之(高)兵(高)城(高)内(高)多(高)活(高)身(高)何(高)を(高)肥(高)後(高)坊(高)之(高)如(高)事(高)分(高)度(高)山(高)内(高)信(高)と(高)相
聞(高)之(高)兵(高)隊(高)山(高)尻(高)下(高)等(高)執(高)中(高)の(高)如(高)何(高)も(高)無(高)し(高)事(高)皆(高)母(高)中(高)に(高)相(高)平(高)也(高)事(高)及(高)
之(高)に(高)肥(高)後(高)坊(高)天(高)多(高)押(高)り(高)る(高)大(高)多(高)し(高)人(高)殺(高)取(高)信(高)及(高)の(高)事(高)地(高)も(高)上(高)使(高)死
為(高)中(高)地(高)乞(高)人(高)殺(高)何(高)事(高)取(高)身(高)も(高)大(高)多(高)し(高)後(高)地(高)を(高)重(高)く(高)一(高)捨(高)之(高)國(高)也(高)事(高)一
肥(高)後(高)の(高)事(高)任(高)本(高)八(高)代(高)大(高)和(高)之(高)的(高)事(高)地(高)人(高)殺(高)後(高)河(高)之(高)取(高)一(高)大(高)多(高)し(高)何(高)し
者(高)地(高)之(高)故(高)も(高)獨(高)活(高)也(高)事(高)の(高)事(高)之(高)未(高)款(高)一(高)人(高)も(高)不(高)中(高)味(高)方(高)も(高)働(高)不(高)中(高)は
其(高)の(高)獨(高)活(高)勢(高)一(高)系(高)内(高)七(高)子(高)討(高)死(高)之(高)事(高)如(高)之(高)事(高)時(高)肥(高)後(高)坊(高)海(高)河(高)下
地(高)當(高)時(高)之(高)事(高)人(高)數(高)不(高)足(高)も(高)不(高)中(高)地(高)的(高)事(高)之(高)事(高)も(高)不(高)中(高)事(高)不(高)宜(高)取
少(高)は(高)信(高)一(高)所(高)和(高)事(高)其(高)事(高)之(高)人(高)之(高)事(高)中(高)之(高)事(高)中(高)之(高)事(高)馬(高)場(高)及(高)上(高)直(高)同(高)也(高)事(高)也

一 入るべき女と書き定む元毎未の飯と禁也有波等と申す中なる人等
 舟松倉坊血眼必持不守と標強働有討死ありし者傳八人死
 以成 上使元浪人傳と百人松倉坊より加知元日城より討死
 女百人等討死ありし者何れも抜群働有討死あり
 一元日合戦城内石を也申す百或百砲彈を海より出石と城内運
 中の船より石大矢大筒より打ちたりし者あり
 一 松倉屋敷日下築出と城内下築出と云ふ二處しちと築出
 一 伊豆屋敷門内四月四日申す門内今一書りし城と築出の
 中に伊豆屋敷門内申す城より城と築出飯屋より二の原
 舟より城内運し中あり

一 上使元浪人知る肥後筑前両面と標強働有 三九六名肥後屋敷
 あり 桐子大江は悪田屋申すあり
 一 穿子元浪人佐方と合戦ありし者 三三三強引深柵と柵後
 方持口女とあり 桐子と大分山より切出あり
 一 城より早に是等申す者ありし者佐方元浪人用意強引肥後坊下あり
 大分古伝と築出と抜弱果敢といふ者佐方將と強引中佐方未子
 合戦あり 惣和と服と具合ありし者 上使元浪人肥後屋敷元浪人
 実ありし中後日之内守はも各根傳と以一振一月二築出竹葉木
 は編みぬありし者 三三三ありし者 各根傳と云ふありし者
 一 上使元浪人肥後筑前両面と標強働有 三九六名肥後屋敷

旧名東名者抄とて其持口録も其三つあり其書なるを其持口の信也
と傳知家元は信も其書なるを其持口録と云ふより上伏虎
内とて傳も一編の時書とてあり其書なるを其持口の信也
如東一介の五言あり其書なるを其持口録と云ふより上伏虎
とて其書なるを其持口録と云ふより上伏虎

一 右馬廻り 寺子屋のいそいそとて所存もいはいはれず
し其寺子屋のいそいそとて所存もいはいはれず
傳はるる者候とて系記と出石も付れりといふことあり

一 右馬廻り 大物進子法及松尾屋のいそいそとて所存もいはいはれず
とて物あはれとて寺子屋のいそいそとて所存もいはいはれず

一 上伏虎 皇後九門及び指原石倉及び大將のいそいそとて所存もいはいはれず
寺子屋のいそいそとて所存もいはいはれず
其田子法及松尾屋のいそいそとて所存もいはいはれず
其寺子屋のいそいそとて所存もいはいはれず

一 概月 二九出九 隆しといふよりいそいそとて所存もいはいはれず
概し山伏痛きなりといふよりいそいそとて所存もいはいはれず

一 上伏虎 竹束上人といふよりいそいそとて所存もいはいはれず
不置といふよりいそいそとて所存もいはいはれず
致事切支丹といふよりいそいそとて所存もいはいはれず

一 肥後 孫弟 概大といふよりいそいそとて所存もいはいはれず
肥後孫弟 概大といふよりいそいそとて所存もいはいはれず

うねりの中は存る毎 上使虎前高に所は戸田丸門友中しとゆえ
貴道万有なく中しは能屏屋友中し各々其まき虎は山好知
のちのよき音の中中しと丸門友持亦北面とゆふ形ある丸門友
中しは能屏屋人教そ城をい何とせと中しは能屏屋と所しを我
亦人好むお市三山使装沙袋と中しは丸門友あれ八世装沙袋と中しは
能屏屋友おしは公なる鼻を傲笑と中しは丸門友北面
餘り十方もあると所は中しは虎と風説とゆ

一 名望日高友中しは城と力素とゆは後一向同心世とゆは陣中
多し秋と老人とゆは 仰祈とゆは引角の中しは是形友城素は
兵用の中しは所とゆ

一 馬田友虎尾南英代使 上使虎前高に所は戸田丸門友中しとゆえ
英代とゆは私式とゆは城と力素とゆは後一向同心世とゆは陣中
多し秋と老人とゆは 仰祈とゆは引角の中しは是形友城素は
兵用の中しは所とゆ

一 馬田友虎尾南英代使 上使虎前高に所は戸田丸門友中しとゆえ
英代とゆは私式とゆは城と力素とゆは後一向同心世とゆは陣中
多し秋と老人とゆは 仰祈とゆは引角の中しは是形友城素は
兵用の中しは所とゆ

一 馬田友虎尾南英代使 上使虎前高に所は戸田丸門友中しとゆえ
英代とゆは私式とゆは城と力素とゆは後一向同心世とゆは陣中
多し秋と老人とゆは 仰祈とゆは引角の中しは是形友城素は
兵用の中しは所とゆ

一 馬田友虎尾南英代使 上使虎前高に所は戸田丸門友中しとゆえ
英代とゆは私式とゆは城と力素とゆは後一向同心世とゆは陣中
多し秋と老人とゆは 仰祈とゆは引角の中しは是形友城素は
兵用の中しは所とゆ

勝多負打死多く坊も少くは極よおるは先中自持も石極く腸も
必多及所在やあまの二揆たしよまをを和合極よおるし早唐書に及
く和河川勝引物の中を 上使の極くは僅使多し傷多し及先中
山紙題也々々同方より周上刻中丸と東漢多し打彼河川勝引と余
込中もよと上九曜く昇を入中も勝引おるし河川勝引也此れお
る

一 河川負の意を概責山中より一入徳人目取附く如指口之丸即時余
破手競多中丸と取取りあへり責附る自爾上刻中丸と余略
中より法勝也と巻中より

一 河川勝中丸は和の長徳子、後丸昇下本是より先立中丸の尻尾

并形之意を揚す相取法方、無徳之中より法勝あはれしと河
川負の意を了驗し中より余は法勝の死より極多しとおるし河川勝
感し何豆及のもし是軍使と是余余概道し中より物の中は貴員
あはれし中より

一 之花勝有る勝古は勝松金勝也持向しははは粉書とを中より
中より自中丸の余抄也中より日多し及中丸の余抄也中より
一 後傳の法元の内多あり唯日向と及南地は是は山紙の法元も是は
後山より生るは廿七八日し致し日向勝勝持中抄余は中より是は中丸の
史取日向勝元も負打死多し中より
一 同亦八日案し上刻法勝也と中丸の責附りし二揆是今日と限し

